

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

訪問調査日	平成20年 6月 20日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 15分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム はやひと (鹿児島県)
-------------------	--------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u> 氏名 <u>石松 成子</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者</u> 氏名 <u>新川 眞由美</u> ヒアリングを行った職員数 3名

※記入方法

●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。

●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

●外部評価項目は30項目です。

○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。

○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)

●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4670900135号		
法人名	社会福祉法人 隼仁会		
事業所名	グループホーム はやひと		
所在地	鹿児島県大口市青木3023番地14 (電話) 0995-22-2333		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年6月20日	評価確定日	平成20年7月9日

【情報提供票より】(20年5月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤7人, 非常勤1人, 常勤換算7.3人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造陸屋根二階 造り		
	2階建ての ~ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,380 円		

(4) 利用者の概要(5月19日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	4	要介護2	2		
要介護3			要介護4	2	
要介護5			要支援2		
年齢	平均 90歳	最低	78歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大口温泉リハビリテーション病院(歯科含む)
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人施設や関連施設などの医療・福祉ゾーンの一部に位置するグループホームであり、緊急時や日常的にも相談協力体制がとられ、本人・家族が安心して生活できる。入居者の思いや意向の把握がされ、入居者はそれぞれの特技や役割を活かし、ゆったりと自分のペースで生活している。地元の人々との交流についても積極的に事業所から働きかけている。また、入居者一人ひとりが居住していた地域の行事などの把握にも努めており、馴染みの場所に出かけるなど柔軟な支援が行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を活かして、地域密着型サービスとしての理念の検討、研修の充実を図るなど具体的に質の向上に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 各職員は前回の評価を確認後、今回の自己評価票に意見を記入し職員会議などで話し合い自己評価をまとめた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームの取り組みの現状や地域との交流の重要性、評価結果などの報告、話し合いがされている。ホーム・家族・地域代表者・行政などそれぞれの立場で活発に意見がでて、その意見を活かして、地域との交流などサービスの質の向上に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時や介護計画作成時などの個別の面談を重視し、情報の共有や意向や要望など話せるよう配慮がされている。家族会、運営推進会議など意見や要望をあらわせる機会があり、家族の代表者を通して意見や要望が表せる配慮もされている。出された意見は、できるだけ反映させるよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の行事や幼児学級、小学校との交流を図るため、関係者などと積極的に連携を行っている。花見や茶摘み、敬老会、文化祭など参加、見学、出品など行いながら、出向くだけでなく、ホームに遊びにきてもらえるよう地元の人々と交流している。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 中村 朋美 / 調査員 石松 成子

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に職員で検討し、入居者の思いを大切に地域の中でありのままに暮らしつづけることを目指したグループホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎日のミーティング、毎月の職員会議などを利用し、理念の唱和、理念をもとにした日々の支援という意識づけを図っており、職員は、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や幼児学級・小学校との交流を図るため、関係者等と積極的に連携を行っている。花見や茶摘み・敬老会・文化祭などに参加、見学、出品など行いながら、地元の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しており、前回の評価を再確認し、職員で討議し自己評価を行った。評価を活かして、研修の充実を図るなど具体的に質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組みの現状や地域との交流の重要性、評価結果などについて、報告や話し合いを行い、意見を活かして地域との交流などサービスの質の向上に取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議などを利用し、ホームの現状や課題点など報告している。それ以外でも常に相談連携を図っている。他の同業者と市町村とともに地域密着型サービス連絡会を立ち上げ共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	状況に応じた電話連絡、家族の来訪時の面談などで近況や健康状態、金銭管理など随時報告している。定期的な状況報告便りの送付や家族会で入居者の様子やホームの日常などの報告をしている。職員異動については、家族の来訪時や家族会で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時や介護計画作成時などの個別の面談、家族会、運営推進会議など意見や要望を聞く機会があり、家族の代表者を通して意見や要望が表せる配慮もされている。出された意見は、できるだけ反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	状況に応じて法人内の職員の異動があるが、最小限に抑えるよう考慮し、引継ぎ期間を充分にとるなど入居者への影響を少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画をたて、基本的な内部研修（倫理、高齢者、急変時対応など）を行い、資格に応じた研修や学びたい研修、同業者との研修会など外部研修を受ける機会を確保し、伝達研修にて職員の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村や同業者と立ち上げた地域密着型サービス連絡会などを利用して、管理者・職員は、認知症指導者による研修会、交流会、他のホームへの訪問などの活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅などへの事前訪問や面談、本人の状況に応じてホームの見学や体験入居などを行い、入居者が安心して納得して暮らせるように、家族などと相談しながら徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意なことや好きなことなどを活かし生活の中に取り入れ、入居者と職員は互いに感謝の言葉やいたわりの言葉を掛けあうなどしながら、共に学び支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に入居者一人ひとりの会話や行動、表情、家族との会話など、思いや意向を把握することに努め、家族とも連携を図りながら、ミーティングや個別の記録など情報の共有を図り、更に入居者の思いを引き出すことに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族からの要望や意向を把握し、家族の同席のもと担当者会議を行い、そこでの意見や気づきを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日常的や定期的モニタリング、評価を行いながら3ヶ月毎の介護計画の見直しを行なっている。状況の変化に応じた随時の介護計画の見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状況に応じて、通院支援や自宅帰省、馴染みの場所への訪問支援など柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向を大切にきたかかりつけ医や納得の得られた協力病院と相談連携を図りながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応指針を定め、方針の共有を図っている。また、状況に応じて、本人や家族・医療機関と話し合い方針を共有した支援をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけで対応をしている。職員会議などで守秘義務や個人情報の取り扱いなど研修を行いプライバシーの確保の徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの大まかな一日の流れはあるが、本人の意向にそって、一人ひとりのペースを大切に柔軟に対応するよう努めている。また、ミーティングなどで業務優先にならないように職員間で確認している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月ある嗜好調査を活かした献立が作られ、調理の準備から食事、片づけまで、職員と共に食事を楽しむ支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の意向や状況に応じて毎日入浴（温泉利用）ができ、一人ひとりがゆっくり入浴を楽しむよう配慮している。シャワー浴や足浴、清拭など個別の配慮もしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴や力を活かし、家事や草取り、生け花、編み物、書道、裁縫などや、唄やパズル、週刊誌、外出など楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近隣への散歩やゴミ出し、地域の行事への参加、同法人内の施設訪問、買い物、馴染みの場所や自宅帰省など、入居者一人ひとりの意向や状況に応じて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害が起きないように、入居者一人ひとりの行動を把握して、見守りながら、日中は鍵をかけないケアを実践している。出入口にチャイムセンサーが設置はしてあるが、個々の動きに留意し支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内及びグループホーム独自の通報、避難誘導訓練などを地元の消防団や隣接する施設の職員の協力を得ながら定期的に行なっている。備蓄などは隣接の法人に準備をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好調査などを活かし、法人の管理栄養士に栄養バランスなどの助言を得た献立で、個々の食事摂取量や水分摂取量を大まかに把握し一人ひとりの状態に応じ食材を工夫するなどの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、ゆったりと開放的であり、不快な音はなく、光も配慮がされている。季節の生け花や馴染みある装飾品などがあり、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、鉢植えや花、家族の写真、のれんなど一人ひとりの入居者の好みのもや馴染みの物が持ち込まれ、家族にも相談協力を得て、居心地よく過ごせる居室づくりになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。